

## 学校卒業後、希望するところへ就職するために 学校時代にできること

開倫塾

林 明夫

Q 不況で学校を卒業しても就職が難しいといわれていますが、小学生、中学生、高校生のうちに身に付けておいたほうがよいことはありますか。

A (林明夫。以下省略)学校を卒業する間際になって、どうしたら希望する企業や役所、病院、様々な組織に就職できるかを考えるより、小学生、中学生、高校生のうちから少しずつでも準備をしておくことをお勧めします。高校を卒業して大学や短期大学、専門学校、専修学校に進学した後も、数年後の就職のことを絶えず頭において、できる限りの準備をなさることをお勧めします。

Q 一番大切な準備は何ですか。

A 何のために働くのかを真剣に考え、自分なりの考えを明確にお持ちになることです。私は、生活するだけの収入を得るためと、仕事を通して自己実現をすることが働く目的と考えます。皆様は皆様に、是非お考え下さいね。

Q 仕事をする上で大切なことは何ですか。

A 5Sだと私は考えます。5Sとは、仕事の上で大切な整理、整頓、清掃、清潔、躰(しつけ)のことで、これらをローマ字で書くとSで始まりますので、5つのSで5Sといえます。

(1)「整理」とは、必要なものとそうでないものを明確に分け、不必要なものを処分する活動です。整理ができないと不必要なものが多くなり、スペースを無駄に使ってしまったり、資金(お金)が無駄に費やされたりします。

(2)「整頓」とは、何がどこにあるのかをすぐわかる状態にする活動です。整頓ができていないと、例えば工具を探す時間がかかってしまったり、必要な書類を探すのに時間がかかってしまったりします。仕事場で必要な書類、データが見つからないというのは、整頓ができていない一つの現れです。

(3)「清掃」とは、仕事場をきれいにするということです。きれいにするを通じて仕事場を維持管理します。例えば、機械の清掃は機械の維持の基礎です。また、机の上でコンピュータなどを使って情報処理をする場合、机の周りをきれいにするのは、その清掃を通じて情報処理をしやすい環境を維持しています。

(4)「清潔」とは、衛生面での問題だけでなく、今述べた「整理」「整頓」「清掃」がされた状態を長い間にわたって維持する行動をも指します。例えば、工場における「清潔」とは、人体に影響をおよぼす雑菌を除去するという狭い意味だけではなく、「整理」「整頓」「清掃」が常に行き届いた状態を維持するという意味です。

(5)「躡(しつけ)」とは、「整理」「整頓」「清掃」「清潔」について、指示を仰(あお)がずに自身で率先(そっせん)してできるようにすることです。例えば、「整頓」の一つに「使ったものはもとに戻す」があります。これをするのに、上の人から言われたから、あるいは作業標準書(マニュアル)に書いてあるからするのではなく、「自らが率先して行くと職場環境がよくなる」という意識に基づいて行うようにするのが「躡」です。

\*以上、山田秀著「TQM 品質管理入門」日経文庫、日本経済新聞社 2006 年 1 月 13 日刊、66 ~ 68 ページより引用。

学校に通っている間に、学校や家庭、社会での活動をするときに 5S に気をつけながら一つ一つの行動をすると、仕事に就いたときに困りませんし、よい就職のための準備となります。

Q 5S以外に仕事で大切なことはありますか。

A 基礎教育も大切です。小学校や中学校、高校の授業で勉強することは基本的なことばかりですので、仕事をする上ですべて役に立ちます。役に立たないことは一つもありません。また、教科以外の学校での活動もすべて基本的なことばかりですので、仕事をする上で役に立ちます。役に立たないことは一つもありません。すべての学校行事、部活動、学級会・児童会・生徒会活動、当番も仕事の上で役に立ちます。

学校に遅刻をせず元気に登校すること、忘れ物をしないこと、授業中はおしゃべりをせず先生の目を見て真剣に話を聴くこと、大切なことはノートを取り続けること、掃除当番など、数え上げたらきりがなほど仕事の上で役に立つことがあります。

仕事をする上で身に付けるべき基礎的な内容は、すべて学校や家庭、社会での教育の上に成り立っています。仕事に就いてから 0(ゼロ)から勉強すればよいという考えもありますが、学校を卒業するまでにやれることはたくさんありますよ。

Q 採用試験で大切なことは何ですか。

A (1)英語検定や TOEIC(トイック)である程度の英語のレベルを示せること。

(2)SPI(職業適正テスト)で自分の能力を示せること。

(3)わかりやすい文字で誤字脱字なく、自分の考え方を根拠(理由)を示しながら論文試験で表現できること。

(4)何のためにこの企業や職場で働くのか、自分に何ができるかを面接試験ではっきり述べられること。

(5)そのために、「読書による思慮深さ」と「新聞を読んで自分で考える力(批判的思考能力)」を身に付けることをお勧めします。同じ本は 6 回、新聞は毎日読みましょね。